



特定非営利活動法人
日本ホームインスペクターズ協会
Japanese Society of Home Inspectors

Vol. **18**
2019 | July

Home | ホームインスペクターズ ジャパン | Inspectors J A P A N

2019年度 総会号

CROSS TALK

日本ホームインスペクターズ協会

▶ 長嶋 修 理事長 × 大西 倫加 理事 × 栃木 渡 理事

「ASHI」コンベンションに参加した成果とは？

INFORMATION

協会活動報告

第10回 JSHI公認

ホームインスペクター (住宅診断士)資格試験

FROM JSHI

▶ エリア部会活動報告

北海道 | 東北 | 首都圏 | 中部

近畿 | 中国・四国 | 九州



01 INDEX

02 協会理事長よりご挨拶

03 |CROSS TALK| 米国ホームインスペクターズ協会・総会視察報告

日本ホームインスペクターズ協会

長嶋修 理事長 × 大西倫加 理事 × 栃木渡 理事

「ASHI」コンベンションに参加した成果とは？

07 |FROM JSHI| 通常総会報告

2019年度 通常総会

09 |WHAT'S NEW| 事務局連絡

診断上手NEXTのご紹介 / JSHIホームページリニューアル

11 |INFORMATION| 事務局連絡

協会からのお知らせ

13 |FROM JSHI| 協会活動報告

エリア部会活動報告

23 |INFORMATION| 協会活動報告

第10回 JSHI公認ホームインスペクター（住宅診断士）
資格試験を実施

受験者アンケート結果報告

25 |FROM JSHI| 事務局連絡

事務局からのお知らせ

|SUPPORTING MEMBER| 法人賛助会員PR

15 株式会社イング

25 大和ハウス工業株式会社

26 株式会社アイ・ソーキ

26 一般社団法人街と暮らし環境再生機構

※本号掲載順



編集後記

あいにくの雨の中、2019年通常総会にご参加いただきました方、議決権の行使にご協力をいただきました方へ、心より御礼申し上げます。

本誌の掲載内容に関するお問合せは、協会事務局へお願いいたします。

TEL.03-6709-8275

協会理事長よりご挨拶



「インスペクション説明義務化」が、昨年4月にスタートするも、インスペクションが本格普及し、中古住宅流通が活発化することにはならず、むしろトラブルを生んでいます。理由はかねてから述べてきた通り、いくつかの制度的な不備のため。

まず「媒介契約時に、宅建業者がインスペクション業者の斡旋の可否を示し、意向に応じ斡旋を行う」という点。これは明らかに、売主側のインスペクションが企図されています。なぜなら、売主とは物件売り出し前に媒介契約を締結しますが、買主とは実務上、契約当日を行うため。契約の場になってインスペクションの斡旋の有無を提示されたところで、目の前には売主がいるわけで、時すでに遅し。

他のインスペクション先進国では例外なく「売主が行うインスペクションは信用ならない」と、買主側がインスペクションを行う制度設計に改められてきた歴史が。なぜならそこには、この業界にありがちな「癒着の構図」があるからです。こうした事態はアメリカ・カナダ・オーストラリアなどのインスペクション先進国で例外なく起こりました。その後アメリカでは州ごとに「業者によるインスペクター紹介禁止」などで対応。現在はほとんどが買主によるインスペクション。契約後5~7日程度のうちにインスペクションを入れ、その結果によって契約条件を再交渉

でき、場合によっては白紙解約もできます。

オーストラリアでは、「売主インスペクションは虚偽多し」と問題になり、買主がインスペクションするしくみを創設。契約後にインスペクションを行い、当日夕方5時までに契約解除や不具合箇所指摘。何もなければそのまま契約条件了承。インスペクション先進国は例外なく「宅建業者とインスペクターの癒着」と闘ってきたのです。

次に、重要事項説明時に、宅建士がインスペクションの有無とその内容を説明しなければならないこと。宅建士にインスペクションの素養がないことは周知。また説明時には、報告書を提示する義務はなく「雨漏りがあった・なかった・わからない」といった項目の提示のみ。これでは、例えば雨漏りがあった場合、原因は何か、どんな直し方があるか、それによってどの程度長持ちするかといったところまで説明できなければ買主は納得・安心しないでしょう。

当協会は「インスペクションの王道」を標榜。日本における「ホームインスペクションのスタンダード」を目指しますので、どうぞよろしくお願いたします。

特定非営利活動法人 日本ホームインスペクターズ協会

理事長 長嶋修

米国ホームインスペクターズ協会・総会視察報告

「ASHI」コンベンションに参加した成果とは？

日本インスペクターズ協会(JSHI)の理事3人(長嶋理事長、大西理事、栃木理事)が、2019年1月にアメリカのホームインスペクターズ協会であるASHIのコンベンションに参加しました。ここでは、どのような新たな気づきがあったのか、理事それぞれに語ってもらいました。(取材・執筆/住宅ジャーナリスト 山本 久美子) ※栃木理事は、札幌からテレビ会議による出席



長嶋 修

ながしま・おさむ | 当協会理事長 (株)さくら事務所代表取締役会長。国土交通省既存住宅インスペクションガイドライン検討会など参加多数。



大西 倫加

おおにし・りか | (株)さくら事務所代表取締役。2011年7月より当協会理事。



栃木 渡

とちき・わたる | (株)北工房代表取締役。(一社)リノベーション協議会前理事。2013年4月より当協会理事。

——まず、JSHIを立ち上げる際に参考にされたという、ASHI (American Society of Home Inspectors) とは、どんな協会か教えてください。

長嶋 2004年にアメリカに視察に行ったのですが、アメリカに当時3つの団体があり、その中でも最大の規模だったのがASHIです。創設されたのが1976年ですから、もう40年以上の歴史のある団体で、現在8700人のインスペクターが登録しています。組織の中心になるのは10人ほどのボードメンバー(理事)で、支部や委員会などで構成されています。

JSHIは、このASHIの仕組みを日本流にアレンジして立ち上げました。視察の時には「なぜNPO法人なのか」と思いましたが、今は国や州から独立した民間の団体という位置づけでいることのメリットを感じています。

——協会設立10年にあたって、ASHIと協定を締結した目的は、どういったことでしょうか？

長嶋 当面の目的は、交流や親善を目的とした関係性を築くことです。分かりやすくいうと「姉妹都市」の関係かな。いずれはがつつりと技術的な意見交換などもしていきたいですし、将来的にはアジアにもこうした協会ができると思いますから、日米だけでなく、より広範囲な連携になっていくのではないかと思います。

——2019年1月にASHI開催の「INSPECTION WORLD」コンベンションに参加した経緯や内容をお聞かせください。

大西 協力関係にある日本の団体ということからASHIの招待を受けて、1月20～23日の4日間、サンディエゴで

開催されたコンベンションに伺いました。コンベンションでは、インスペクター向けの様々な商品展示のブースやインスペクターのための講習、協会の総会や理事会などの会議が行われます。JSHIとしては、協会を紹介するブース展示をしまし、総会でASHIのメンバーにJSHIを紹介していただいたりもしました。伺った理事3人は、手分けしてブースを回ったり、それぞれ興味のある講習を受けたりしてきました。

長嶋 日本のビックサイトなどで行われるコンベンションをイメージしてもらえると分かりやすいと思います。テーマに応じた数多くのブースの展示もありますし、会場の一角がセミナースペースになっていて随時セミナーが開催されたりしますね。ASHIのコンベンションは、その規模をかなり大きくしたもので、ホテルをまるごと借り切って開催していました。4日間でのべ1000人、そのうちインスペクターが800人参加したそうです。

ASHIのコンベンションは開催目的が多様にある

大西 全米のインスペクターが集まるASHIのコンベンションの目的は、三つあると思います。一つ目は、総会を開催して、協会の予算などを議決すること。二つ目は、ホームインスペクターにとって有益な講習を提供すること。三つ目は、周辺ビジネスの情報提供や商談をすること。

驚いたのは講習のメニューの多さです。ホテルの部屋を使って、シロアリやラドン調査などのホームインスペク

ションの「技術的な講習」もあれば、個人事業主として経営するための「ビジネス系の講習」もありましたし、個人のモチベーションアップのための「自己啓発的な講習」もありました。おそらく100近い数の講習があったと思いますが、本当に幅広いメニューが用意されていました。

アメリカではインスペクションが一大産業になっているので、周辺ビジネスも広範囲です。メインホールでは、日本でも普及してきた「診断アプリ」や「レポート作成アプリ」はもちろん、アメリカはオプション検査が多いのでそれに対応した多くの調査機材、訴訟に備えた保険(エラーズ・アンド・オMISSION保険)や調査した設備を一定期間保証する保険など、多種多様な展示がありました。

——それだけプログラムが多いと、インスペクターが参加する費用はどうなっているのでしょうか？

長嶋 参加するためのチケットを事前に購入するのですが、4日間通しとかワンディとかの何種類かのチケットがあって、たしか通しのチケットが500ドルくらいだったと思います。

大西 ほとんどのインスペクターの方は4日間通しで参加されるので、会場となっているホテルに宿泊して、夜はエリアごとにギャザリングして軽く飲みながら情報交換をしたり、ASHIが主催するディナークルーズのパーティに参加したりといったこともできます。家族連れで来られる方もいるので、バスツアーなども用意されていました。

長嶋 コンベンションは毎年、寒い1月に南側のエリアで開催されます。たぶん、ビジネスだけでなく、比較的工作の少ない時期に、家族も連れて寒い地域から南の暖かいエリアに集まって、「熱海旅行みたい」(笑)な感じもあるんじゃないかな。

アメリカの関連商品はリスクヘッジが徹底されている

——どういった点が印象に残っているのでしょうか？

栃木 私は非常に英語が堪能なので(笑)、講習は受けずに、展示会場のほぼ全部のブースを回ってカタログをもらったり話を聞いたりしてきました。おそらく80以上のブースがあったかと。調査機材などの展示も相当数出たのですが、そのなかで、保険代理店のブースが数

多く並んでいるのに驚きました。それだけニーズもあれば、種類も多いということなのでしょう。インスペクションのリスクを減らす仕組みが整っていて、日本の保険事情と比べると羨ましい気がしました。インスペクター向けのアプリケーションやコンピューターのシステムなどでも、商品がリスクヘッジのための立て付けになっていました。アメリカは訴訟が多いこと、インスペクションの市場が成熟しているということもありますが、日本の市場もアメリカの市場に近づいていくのではないかと思いますね。

——ご覧になった調査機材などで、日本とは違うものもありましたか？

栃木 ドローンがフル活用されているということもなかったし、調査機器などは日本とそれほど違いはなかったですね。ただ、日本でもサーモグラフィカメラを使った診断をするのですが、そのスキルをトレーニングするためのトレーラーが展示されていました。日本で職場の健康診断の時にレントゲン撮影用のトレーラーが来ますよね、あのイメージです。それだけ教育のニーズがある、という点に驚きました。

インスペクター相互の情報交換・情報共有に魅力

大西 アメリカは個人事業主のインスペクターが大半なので、ビジネス系の講習メニューもマーケティングやSNSの活用法、ホームページの作り方といった、「超実践的」な講習が多かったんです。アメリカは訴訟社会ですから、訴えられやすいトラブル事例に対して事前にケアするポイントを教える「トラブルシューティング」の講習もありました。私が参加した講習では、受講者の発言量が多すぎてマイクの取り合いになる事態になり、とても驚きました。どうということかという、講習自体はベテランのインスペクターがベーシックな内容を説明するものだったのですが、「講師のトラブル事例で自分はこう対処したがそれについてどう思うか」という質問に、ほかのインスペクターが自分の対処法や考え方を次々と発言する、意見交換の場になっていったんですね。その様子を見て、「ほかのインスペクターも同じような経験をしている」とか、「ほかのインスペクターは工夫してこんな対処をしている」と

いったことが共有できるからこそ、多くのインスペクターが積極的に参加をするんだと実感しました。

——アメリカでは、インスペクションのトラブルが多いということでしょうか。

大西 アメリカでは住宅取引の9割が中古の取引で、その9割でインスペクションが行われているので、件数自体が多いんですね。一般的なインスペクターの場合で1人年間300件程度、多い人になると年間500~600件のインスペクションを実施しているそうですから、トラブルに遭う機会はそれだけ多いということでしょう。

ナンバーワン規模の団体として ASHIは多彩な取り組みも

長嶋 あまり印象に残ったものはないかな(一同笑)。とっても期待してアメリカに乗り込んだので、正直「こんなものか…」と思いました。日本の協会を立ち上げる前に視察した段階から基本的なものはそれほど大きく変わっていない、むしろ日本がこの10年でかなりのレベルにまで追いついたということでしょうか。

大西 (苦笑)ちょっと補足させてください。日米を比較すると、インスペクションの市場規模では大きな違いがあるのですが、インスペクションという業務についてはあまり違いがないということですね。

ただ、団体としての住宅市場における位置づけとか、ナンバーワン規模の団体としての取り組みなどについては、いろいろ違いがありました。例えば、ASHIはマーケティングのスペシャリストをリクルーティングして、普及活動にかなり創意工夫をしています。コンベンションのアプリや動画なども、とても格好良く創っているんです。それから、ライセンスを取得するための指定講習団体になるために各州に働きかけをしたり、専門調査の団体との連携を深めたりといった取り組みもしています。こうし

た活動を拝見して、私たちもそこを目指して行きたいと励みになりました。

「We are the standard」 日本も気概、ネットワーク、働きやすさを

——今回、参加したことで得たもの、今後取り組んでいきたいことなどについて、お聞かせください。

栃木 日米で歴史が違うということもあるのですが、コンベンションで販売しているインスペクションのマニュアルが、電話帳ほどの厚さだったんです。日本では、構造や雨漏りなどに重点が置かれますが、ASHIのマニュアルは設備機器関係が充実していました。建築の設計に関わる者としては、近い目標として、JSHIのマニュアルをそのレベルまで充実させたいと思いましたね。

もう一つは、ASHIのコンベンションのあちこちに「We are the standard」というキャッチフレーズが見られました。我々が王道を行っているのだという、ASHIの気概とか矜持の表れでしょう。日本ではインスペクションに類似する業務もいろいろ出てきたので、「我々こそが本家のインスペクションだ」という気概を持って、技術的な面での充実などに貢献していきたいと改めて思った次第です。

大西 アメリカではインスペクターの大半が個人事業主なので、インスペクター同士が仲良くなって助け合えるという「ネットワーク」が大切なんです。ASHIのボードメンバーの方もおっしゃっていたのですが、古参のボードメンバーと新参のメンバーとで情報交換したり、インスペクター同士が交流したりする場を重視しているということです。JSHIでも、会員同士で助け合える仲間づくりができるようなネットワークをつくる場を、もっと増やしていきたいと思っています。

注目したのは、ASHIの会員の特典が大きいことです。コンベンションでは宿泊や食事を伴いますから相応の負

担は必要ですが、あらゆる講習を受けられますし、協会と提携している調査機器であれば割引で購入できます。協会が周辺ビジネスの事業者と組むなどして、会員のインスペクターが働きやすい環境をつくっているわけです。会員のネットワークをつくること、より働きやすい環境をつくることの2点については、JSHIでも力を入れていきたいと刺激を受けました。

日本でもインスペクターとして 専業でやっていけるのが理想

長嶋 そうですね。アメリカのインスペクターが平均して年間300件の仕事がある、という実績は大きいですね。日本では、売買契約の際に仲介会社にインスペクションの説明を義務付けるといったところまで来ましたが、まだ普及しているとは言い難い。当たり前のようにインスペクションをする状況にして、会員の皆さんの仕事ももっと増えるようにしていかなければならないと思います。

それから、これは他山の石というか、ASHIのネガティブ面から学んだ点なんですけど、40年以上経ったASHIの中心となるボードメンバーが70代になり、かなり高齢化していると感じました。実績も大切ですが、それでは若い人が入っていきづらいでしょう。組織としての新陳代謝も必要なので、我々も考えないといけないかなと(一同笑)。——日本では業務と兼業でインスペクションをしている方が多いように思いますが、アメリカのインスペクターは専業でやっている方が多いということでしょうか？

大西 日本でも専業でやっていけるのが理想だと思いますが、アメリカではそもそもインスペクションの発生件数が多いので、専業でやっていける環境にあります。件数が多いので、家族が手伝ってファミリービジネス化したり、子どもに屋号を譲ったり、セカンドキャリアとして新たにインスペクターになる人がいたりしますが、それで成り立っています。一方で、州によって多少の温度差はありますが、他の職種との癒着を禁じるレギュレーションもあります。たとえば、コンストラクション出身のインスペクターも多いのですが、自分がインスペクションした物件は一定期間工事に携われないとか、仲介会社や斡旋したリフォーム会社などから紹介料を取ってはいけない

など。そうすると、専業でなければやれないという側面もあるんです。

JSHIの今後の展望 協会としての魅力アップも

——最後に、JSHIの今後の展望についてお教えてください。

長嶋 ASHIとの関係でいえば、実績ということを除けば、生意気ですけど肩を並べていると思っているので、今後は切磋琢磨できる関係になりたいと。さらに、アジアなどほかの国との連携を深めていきたいと思っています。

それから、JSHIに参加していることで、相互に情報共有ができるとか、スキルアップができるとか、便利なサービスが使えるとか、そういった協会の魅力を高めることに、今後は注力していきたいと思っています。たとえば、将来、調査機器などが進化すれば、インスペクションの技術的なやり方も変わるかもしれない。そうするとインスペクターに求められるのは、コンサルティング能力になったりするわけです。そうした時代の進展に応じて、現場に本当に必要なサービスをいち早く用意するなど、協会のあり方も素早く変えていきたい。独立した民間の団体でいることで、柔軟に対応できるメリットがありますから。

大西 今回、情報交換会やお食事会などに出席させていただいて、ASHIのボードメンバーやインスペクターの方とお話をして驚いたことがあります。「インスペクターには高い倫理観が必要だ」とか、「安心して取引してもらおうことに自分たちの存在意義がある」とか、「いかに顧客に誠実な仕事をして役立っているか」といったことを、真顔で熱く語る人が多いんです。その姿はとても素敵で、日本でもそういった空気感や価値観のあるコミュニティーを作っていきたい、JSHIも協会として高いレベルで牽引していきたいと思いました。日本でも良質なインスペクションを普及させるために、皆さんと力を合わせていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

American society of home inspectors (ASHI)
1967年創立。会員8700人の米国最大の非営利のホームインスペクターの協会。設立時から住宅診断のスタンダードと厳格な倫理規範の確立を目標とし、現在も会員のニーズを満たすために必要な教育プログラムを提供することにより専門性の向上を推進している。



2019年度(令和1年度)通常総会を開催

定款に則り、毎事業年度で1回開催する通常総会は、正会員(認定会員、一般会員)をもって構成されます。会員のみならずには、総会成立のために必要な議決権の行使にご協力をいただきましたことを心より御礼申し上げます。

会場：早稲田奉仕園 スコットホール講堂
日時：2019年6月22日(土)

通常総会 ▶ 16:45~17:45

理事長セミナー ▶ 13:00~14:30

法人賛助会員展示・企画 ▶ 13:00~15:30

基調講演および記念対談 ▶ 15:00~16:30

懇親会 ▶ 18:00~19:30



通常総会では、予定の3議案が全て承認されました。通常総会の前には、法人賛助会員による展示と特別セミナーや、理事長セミナーを開催。特別ゲストの武井氏が「社長も投票で決める 非常識な会社の働き方革命」と題して講演を行い、「働き方」のヒントを紹介。後半は、当協会理事長の長嶋も加わり、さらなる討議を展開しました。

また、通常総会の後には懇親会も開催し、全国から集まった会員同士、理事らが懇談できる場を設ける一方、法人賛助会員のアイ・ソーキ様の機材プレゼンが行われるなど、盛況のうちに幕を下ろしました。

長嶋理事長と武井浩三氏による
記念対談の様子

▶ 基調講演

「社長も投票で決める 非常識な会社の働き方革命」

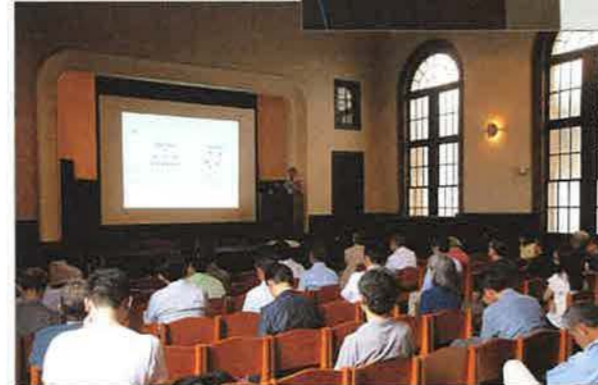
■ 特別講師

武井 浩三 (ダイヤモンドメディア株式会社 代表取締役)

講演中の武井浩三氏
(ダイヤモンドメディア株式会社
代表取締役)



あいにくの雨の中、多くの方
にご来場いただきました



▶ 記念対談

武井 浩三 × 長嶋 修 (当協会 理事長)



▶ 通常総会

出席者数:926名(当日出席:49名、評決委任者:523名、電磁的方法による表決者:60名、書面による表決者:294名)。

会員数報告(2019年6月1日現在)

1,764名

定款第五章で定められた各条項に則り、総会成立に必要な正会員数のうち、定員数の1/2を充足しています。

第1号議案 2018年度事業報告

第2号議案 2018年度決算報告(監査報告を含む)

第3号議案 2019年度事業計画および収支予算案



自社商品マルチ
点検カメラの展
示(イング)



住宅診断向け
の各種機器の
展示(アイ・ソー
キ)



今年度よりエリア部会長に就任した森田伸幸氏、松塚智宏氏、松田貞次氏よりご挨拶



大賑わいの懇親会。歓
談の輪があちらこちらに



今年も懇親会
のお料理が大
好評



触って試せる機
器の展示や機器
のプレゼンで盛
り上がる一幕も



恒例となった
「ファイヤー」の
コールで思いを
新たに閉しまし
た

調査診断WEBアプリ「診断上手NEXT」2019年4月より公開



いままで認定会員の会員特典としてご愛顧いただいていた調査診断システム「診断上手」の後継として、2019年4月より新しい調査診断システム「診断上手NEXT」をリリースしました。生まれ変わった調査診断システム「診断上手NEXT」をぜひお手に取ってご活用ください。

▶ 診断上手NEXTの特徴

特徴① | スマートフォンやタブレットでも使用可能になりました

通信環境があれば、スマートフォンやタブレットでも現場で調査データを作成できます。お手持ちの端末で、JSHIの会員専用ページにログインし「レポートシステム」をクリックすると、診断上手NEXTをご利用いただけます。ぜひ現場でも診断上手NEXTをご活用ください。



特徴② | 「既存住宅状況調査」用のフォーマットでも出力できます



「既存住宅状況調査技術者講習」受講者用のフォーマットで調査票を作りたい場合にも、「診断上手NEXT」が大活躍。国が指定したフォーマットでも帳票が出力できます。既存住宅状況調査技術者講習を受講の方は、新たに加わったこの機能をご利用ください。

※「既存住宅状況調査技術者講習」の受講を修了し、JSHI事務局へ資格情報の追加を依頼した方のみ、ご利用いただけます。

特徴③ | 建物の構造別に調査項目チェックリストが出力できます



旧診断上手では調査項目の一覧を1種類ご提供していましたが、「診断上手NEXT」では、調査予定の形態や構造を選択すると、条件別に調査項目チェックリストが作成できます。いままで対応していなかったマンションや、SSR造、S造などの構造にも対応したチェックリストが発行可能になりました。現場に行く前に、必要な調査項目を確認できますので、ぜひご活用ください。

特徴④ | 写真のレイアウト機能を強化。「調査もれチェック機能」も搭載されました



調査診断書に添付する写真のレイアウト機能が強化され、いままでできなかった3連写の写真のレイアウト枠などが実装されました。画像は、1枠10MBまで添付可能。

※3連写の場合は、3画像で10MBまで鮮やかな写真を調査票に載せられます。

使用上の注意

- 1画像が10MB以上高画質な画像データを使用すると、データが重くなり、ダウンロードができなくなる場合があります。ダウンロードでエラーが出た場合、まずは画像データのサイズをご確認ください(データ合計100MB以内になるようにご利用ください)。
- 通信エラーが頻繁に発生する場合は、お手数ですが当協会事務局(info@jshi.org)まで、ご連絡をお願いします。

ホームページが2019年4月よりリニューアル

WEBページに新しい機能を盛り込み、2019年4月にリニューアルしました。

お知らせページの表示件数が増え、イベント情報やお知らせも見やすくなりました。

旧WEBサイトが表示される方は、キャッシュの「検索履歴」を削除した後、検索サイトで当協会を検索してご覧ください。



「ホームインスペクター検索」で、検索できる項目として「資格情報」が追加になりました。アピールしたい資格がある方は事務局へご連絡ください。

「ホームインスペクター検索」で、いままでできなかった有資格情報で絞り込みができるようになりました。例えば、「既存住宅状況調査技術者講習」の修了証をお持ちの方は、「ホームインスペクター検索」の「既存住宅状況調査



技術者」の検索条件にチェックを入れるとヒットしますが、TOPページ「住宅診断を依頼したい」をクリックした先にある「ホームインスペクターを検索」より、「施工管理技士」など、チェックボックスに名前がない資格も「キーワード検索」で検索できます。資格者証のコピーをメールもしくは郵送でお送りいただけますと登録できます。

登録していない資格を登録し「ホームインスペクター検索」でアピールしてみませんか。

一度、会員専用ページにログインのえう、「会員情報変更」より一度登録されている資格をご確認ください。

協会からのお知らせ

▶ 公認ホームインスペクター資格試験テキスト
令和新版 2019年7月より好評販売中

JSHIのバイブル「JSHI公認ホームインスペクター資格試験テキスト」がリニューアルしました。

2019年度試験に対応しているのはもちろんのこと、建築分野の拡充や、用語解説や二次元バーコードで資料を確認できる機能が追加となるなど、旧「JSHI公認ホームインスペクター資格試験テキスト」をお持ちの方や、既に資格試験に合格している方にもお勧めできる内容です。

LEC東京リーガルマインド・オンラインショップのほか全国の書店・Amazonにて2019年7月より好評販売中。



定価 3,300円(税抜)
ISBN 978-4-8449-9764-1

◆ 詳細

▶ 新資格「インスペクター説明技能者」
2019年秋より開講

宅建業法一部改正に伴い、需要を増す「ホームインスペクション(住宅診断)」。

いざ、お客様に説明となった時に不安になったことはありませんか。

JSHIでは、不動産売買時の説明スキル向上に活用できる、新しい公認資格「インスペクション説明技能者講座」を開講します。

後日、詳細情報をホームページに掲載いたします。

【インスペクション説明技能者とは】

2019年に新たに生まれた資格であり、講座の受講と修了レポートで基準点を取得し、当協会の「一般会員」として登録いただくことにより取得できます。

不動産売買時の説明義務となったホームインスペクションや、報告書について正しく理解したうえで接客ができるスキルを有することを公認します。

注意喚起

協会倫理規定に基づき、事務局に設置されている相談窓口に対し、「公的機関」からの所有会員資格の照会、一般消費者から様々な苦情、相談が寄せられています。

会員の皆さんが行った診断内容については、診断を行った者の技術的知見によってなされていることであり、協会がその技術的な精査や正否のジャッジを行うことはありません。

しかしながら、診断を行う前提として、「協会倫理規定」や国交省の「既存住宅インスペクション・ガイドライン」については、その規定を順守するのは、公認ホームインスペクターとしての責務であり、厳に守るべきものです。

また、それらの前提条件を順守せず行った診断結果について、訴訟や調停などになった場合、診断内容の正否ではなく、単なるモラル違反を行っている者として不利な立場にたたされます。

以下のことについて規定・ガイドラインに抵触している例が散見されますので、ここに注意喚起いたします。

なお、詳細は協会ホームページ「会員ページ」に掲載しますので、ご一読をお願いします。

* * *

- 自社を宣伝するにあたり、広告媒体(チラシ・ホームページなど)に事業者の基本情報、業務内容に関する事項、診断を行う公認ホームインスペクターに関する基本事項、兼業の状況に関する事項、検査業務に係る留意事項、などを消費者に対して情報開示していますか。

- 公認ホームインスペクター資格と共に建築士を所有し

* * *

ている者は、診断業務に対して対価を受け取る場合、建築士事務所登録が必要です。

- インスペクション業務を受託しようとする際には、準委任契約に係る債務不履行により損害賠償責任を負うことが考えられます。次に掲げる事項を書面等により説明し、依頼主が説明の内容を確認したことについて、書面等により記録していますか。

※契約において一般的に必要と考えられる事項(検査事業者の名称、所在地、代表者、許認可等の有無、料金及び支払時期、契約の解除に関する事項等)

※一般的な契約行為において行われるべき、見積書、受発注書、請求書、領収書

- 一般消費者が瑕疵の有無の証明などを求めてくる場合があります。以下の検査結果に係る留意事項を書面により確認していますか。

※瑕疵の有無を判定するものではなく、瑕疵がないことを保証するものではないこと

※報告書の記載内容について、検査時点からの時間経過による変化がないことを保証するものではないこと

※建築基準関係法令等への適合性を判定するものではないこと

※報告書の複製等に関する制限や第三者が利用する場合の取扱に関すること

北海道エリア部会



建築や不動産等の専門家が、共通の理念や目的のもとで交流できる場はエリア部会活動以外にはありません。北海道エリア部会では、会員のスキルの向上や地域貢献の取り組みを行っています。一緒に人と住まいの幸せな関係を追求していきましょう!

★北海道エリア部会長 古田 昌之

▶ 2018年度試験直前対策講座

2018年11月7日(水)、10日(土)

会場：札幌市産業振興センター セミナールーム7

■講師 栃木 渡、古田 昌之

2018年度JSHI公認ホームインスペクター試験を受験される方、受験をお考えの方を対象とし、少人数制の試験対策直線講座を開催しました。受験に申し込みをした方のほか、復習のために既に資格を取得した方も参加され、真剣に取り組んでいました。



真剣に講義に聞き入っている様子の参加者の皆様

▶ 北海道胆振東部地震被災者支援

住宅診断士による無料の被災住宅相談会

2018年11月17日(土)

会場：日の丸会館

■相談 古田 昌之

北海道胆振東部地震被災者支援として、当協会の活

動理念に基づく北海道在住の会員有志により被災住宅相談会を実施しました。相談会のほか、会員間での情報共有や、今後の被災者支援活動について検討しました。



会場設営をする北海道エリア部会スタッフ



▶ TERS × JSHI北海道エリア部会 × シフトブレイン・ジャパン株式会社 3団体共催セミナー

2019年3月27日(水)

会場：かでの2.7 会議室710

■講師 古田 昌之

「赤外線サーモ活用による建物診断・住宅診断の可能性とドローン複合技術の具体的な進め方セミナー」と題し、JSHI北海道エリア部会、赤外線建物診断技術の研修と資格制度などを推進している一般社団法人暮らし環境再生機構(TERS)、ドローン技術の取得と業務のフォロー体制を構築しているシフトブレイン・ジャパン株式会社の3団体がタッグを組み、それぞれの豊富な診断事例をもとに、赤外線サーモ、ドローン複合技術、住宅診断の具体的な進め方や今後の可能性について解説しました。

各団体、技術の特長や、効果を最大に発揮できる調査環境を説明したうえで、天候や調査対象の立地などによる調査が難しい事例も挙げ、それぞれがお互いに苦手な部分を補い合うことによって、悪条件下でも調査が可能になったり、調査精度の向上など、顧客にとっても大変メリットがある旨を伝えました。

その後の懇親会では、30名近い方が参加し、思い思いに参加者同士でご挨拶や情報交換など交流しました。



登壇中の古田エリア部会長。今後も各団体の知識向上や情報交換のため、定期的開催をしていきたいと語っていました



当日、北海道エリア部会が提供した資料。古田エリア部会長が惜しみなく事例写真などを掲載した資料を、参加者全員に提供しました



会場の入口の様子



北海道胆振東部地震により延期となった本イベント。多くの方にご来場いただきました

▶ 東北エリア部会 ◀



東北は、消費者の認知も各県の実務者数もまだまだ伸び代があります。今年度は、実務者のスタートアップ支援、レベルアップ、受注支援を図る研修会を、各県で開催の予定です。どなたをお誘いいただいてもOK。初参加の方にも評判の懇親会もお楽しみに！

★ 東北エリア部会長 松塚 智宏

▶ 理事長セミナー in 仙台

2019年3月16日(土)
会場：PARM-CITY131
■ 講師 長嶋 修

テーマは「ホームインスペクション(住宅診断)は今後どうなるのか」。長嶋理事長が、ホームインスペクションの現状や今後の見通しなどを分かりやすく解説。更にASHI総会でのアメリカでの取り組みを紹介しました。



登壇した長嶋理事長

SUPPORTING MEMBER 住宅診断に役立つ機材の開発と販売

インスペクション 中長期点検

住宅診断用点検機材

マルチ点検カメラ

小屋裏 外壁など

誰でも簡単操作、鮮明な画質で記録出来ます！

高所点検カメラ たかみ君6

屋根 外壁など

お客様の資産の適正価値を守るために！

お問い合わせ先

株式会社 イング

■ 本社 大阪府大東市太子田3丁目4番31号
TEL (072) 875-7331 FAX (072) 875-7333

■ 東京営業所 東京都品川区西五反田8丁目7番11号
TEL (03) 5496-1491 FAX (03) 5496-4877

■ 九州営業所 福岡県大野城市仲畑2丁目14番17号
TEL (092) 502-2232 FAX (092) 584-2022

ホームページ <http://www.ing-n.com>

▶ 首都圏エリア部会 ◀



事務局が運営することになり1年が経過しました。現在、目下物件を募集中の「実地研修」のほか、下半期には皆様のお役に立つようなイベントを計画しています。随時「実地研修」の物件を募集中です。今後もエリア部会活動を盛り上げて参りたいと思いますので、ご参加および協力をお願いします。

★ 日本ホームインスペクターズ協会 事務局

▶ 全国7都市開催 試験直前対策講習

2018年11月14日(水)
会場：LEC 新宿エルタワー本校
■ 講師 金子清之、田中歩、栃木 渡

2018年度JSHI公認ホームインスペクター試験を受験される方、受験をお考えの方を対象とし、試験対策直線講習を開催しました。東京のみならず、試験運営団体のLEC東京リーガルマインド様の全国7都市の教室で衛星放送を使い、同時に講義を展開する初めての試みとなりました。

試験対策ウェブ講習の講師の登壇ということと、試験4日前の開催ということもあり、多くの方が参加し、真剣に講義に耳を傾けていました。



建築分野を担当する栃木渡理事



調査・診断分野を担当する金子清之理事

LEC東京リーガルマインド様の教室で実施



不動産分野を担当する田中歩理事

▶ 中部エリア部会 ◀



中部エリア部会では「一人でも多くのインスペクターが、一件でも多くのインスペクションを」を合言葉に、信頼される本物のホームインスペクションを目指し活動しています。運営のお手伝いをして頂ける方も随時募集しておりますので皆さんで、この地域のインスペクションと一緒に盛り上げて行きましょう！

★ 中部エリア部会長 加藤 大輔

近畿エリア部会



近畿エリア部会では、今年度より役員体制も変わりました。役員全員で、より良いエリア部会を作って行きます。研修例会は部会員さんの普段のインスペクション活動に役立つような情報を提供できるように取り組みます。そのためにリクエストをお待ちしています。

★近畿エリア部会長 松田 貞次

▶ 第4回 研修例会

2018年10月19日(金)

会場：大阪産業創造館 6階会議室AB

■講師 早田 宏徳 (マングローブエナジー株式会社 代表取締役)

「省エネ建築の伝道師 早田宏徳氏とともに2020年に向けて省エネ建築を考える」をテーマに、省エネ建築の伝道師として活躍されている早田宏徳氏(マングローブエナジー株式会社 代表取締役)をお迎えし、特別講演を開催しました。実際に省エネ住宅を建てたお客様の声や、国外の省エネ先進国の取り組みの紹介など、省エネ住宅が全国に拡大する必要性を考えさせられるいい機会となりました。



イベント会場の様子



省エネ住宅の伝道師として活躍中の講師、早川宏徳氏



挨拶は、エリア部会長代行の妹尾和江さんが担当



大賑わいの懇親会

▶ 第5回 研修例会

2018年12月14日(金)

会場：大阪産業創造館 6階会議室AB

■講師 増谷 年彦、植村 敦

ホームインスペクションの実務と専門家としてのスキルを学ぶことを目的とし、「構造別インスペクション報告事例」と「セミナー講師の心得とパワポ資料の作り方」のセミナーを実施しました。

第1部では、診断箇所の理想的な回り方や、図面や写真で見落としはけないポイントなどを構造ごとに解説。

第2部では、実際に人の前に立つ時の心構えや、パワポの使い方などを紹介。診断の経験豊富な方から学ぶことの大切さや、明日から仕事に使える知識が詰まった貴重な1日となりました。

第1部に登壇する、JSHI会員の増谷年彦氏



第2部に登壇した、JSHI会員の植村敦氏

▶ 平成31年度 スタートアップセミナー

2019年2月22日(金)

会場：大阪産業創造館 6階会議室AB

■講師 松田 貞次、中村 友彦、鶴谷 充男

新規入会者および2018年度試験合格者を対象とした、スタートアップセミナーを実施しました。

第1部「受付から受注まで」では、ホームインスペクション受注時の注意や、ヒットしやすいホームページの作成方法などを紹介。

第2部「調査内容」では、見落としを減らすための工夫や、調査診断時の注意点を。

第3部「調査道具の使い方」では、便利な道具の紹介や使い方のレクチャーと、実践にすぐに役に立つ、充実したセミナー内容に、参加者は耳を傾けていました。



会場の様子



第1部に登壇。JSHI会員の松田貞次



第2部に登壇。JSHI会員の中村友彦氏



第3部で道具の紹介をする、JSHI会員の鶴谷充男氏

中国・四国エリア部会



中国・四国エリアでのホームインスペクション普及のため、会員様に向けた技術的・知識的研修を定期的に行っています。主に、古民家を使った動的耐震診断や瑕疵保険適用の事例など、現在のニーズに沿った内容となっています。これからも、会員様をはじめ消費者が安心できる住宅診断を目指した活動を続けていきます。★中国・四国エリア部会長 吉富 淳

▶ 赤外線サーモグラフィーの世界
～サーマルインスペクションの可能性～

2018年11月2日(金)
会場：合人社ウェンディひと・まちプラザ
■ 講師 東出 憲明

サーモグラフィーカメラ診断の専門家、東出憲明氏を北海道から迎え、サーモグラフィーカメラを活用した建物診断のセミナーを実施しました。サーモグラフィーカメラを活用した診断方法など、調査の可能性が広がるいい機会となりました。

▶ 広島市「佐伯区 区民祭り」に出展

2018年11月11日(日)
会場：広島市佐伯区

一般消費者に向けたホームインスペクション啓蒙活動の一環として、昨年に引き続き、広島市「佐伯区 区民祭り」に参加しました。ブース内では、診断中の写真や機材を展示し、ホームインスペクションに関する情報を紹介。昨今、注目を集める住宅診断の普及に貢献しました。

▶ 伝統工法動的耐震診断 実地研修会

2019年2月8日(金)
会場：山口県防府市内
■ 講師 貴船 一樹

(一般社団法人全国古民家再生協会 広島第一支部 代表理事)

需要増の古民家を切り口にした住宅診断の可能性を学ぶべく、一般社団法人全国古民家再生協会広島第一支部代表理事の貴船一樹氏を講師に迎え、伝統工法(い

わゆる古民家)の耐震診断に関する実地研修を実施しました。研修では、実際の物件で、古民家の耐震診断診断のポイントを分かりやすく解説。

床下点検ロボの実演など、ホームインスペクションのさらなる可能性を発見できる貴重な機会となりました。



美しい欄間など、魅力たっぷりの古民家が会場



床下では、法人賛助会員である大和ハウス工業様の製品「moogle」が大活躍



「moogle」が届ける映像。かなりはっきりと床下の状況が確認できました

九州エリア部会



今年度から九州エリア部会長を務めることになった森田です。宜しくお願い致します。実務では多面的な知識・情報力・予見力・コミュニケーション力が不可欠です。エリア部会には多種の専門家や経営者が参加していますので、部会員と接し情報交換することは非常に有益と確信しています。皆様の参加をお待ちしております。★九州エリア部会長 森田 伸幸

▶ TERS&JSHI&稲穂(株) 三社合同セミナー

2018年10月12日(土)
会場：大博多ビル1109会議室
■ 講師 熊本 茂仁、中嶋 俊一(一般社団法人街と暮らし環境再生機構(TERS))、山際 智之(稲穂株式会社)

「赤外線サーモ活用による建物診断・住宅診断の可能性とドローン複合技術の具体的な進め方セミナー」と題し、前JSHI九州エリア部会長の熊本茂仁氏をはじめ、一般社団法人街と暮らし環境再生機構(TERS)の中嶋氏、稲穂株式会社の山際氏を迎え、3団体共催のセミナーを実施しました。

赤外線サーモグラフィーとドローンを使った方法など、3団体共催のセミナーならではの技術も紹介。参加者も興味津々で耳を傾けていました。

集めた情報をどう処理し、どう解釈するかということに関して、「人間の目である『インスペクションスキル』が必要」という結論となり、改めてインスペクションスキルの向上の必要性を感じる一日となりました。



一般社団法人街と暮らし環境再生機構(TERS)の理事、中嶋氏も登壇



ドローンの普及に努める稲穂株式会社の山際氏



本イベントの総司会を務めた熊本茂仁氏



懇親会の様子

▶ 2018年JSHI試験対策講座 熊本会場

2018年10月27日(土)

会場：熊本市国際交流会館 3階 研修室

■ 講師 森田 伸幸、坂本 大志

▶ 2018年JSHI試験対策講座 福岡会場

2018年11月3日(土)

会場：クマホーム薬院店

■ 講師 熊本 茂仁

2018年度JSHI公認ホームインスペクター資格試験の受験者に向け、2018年度も試験対策講習を熊本会場と福岡会場で開催。試験前のためか、参加者は熱心にメモを取っていました。



熊本会場の様子

建築分野を解説する、坂本大志氏



不動産・倫理分野を担当、森田伸幸氏

▶ 九州エリア定例研修会・忘年会

2018年12月21日(金)

会場：くまもと県民交流館パレア 第4会議室

■ 講師 河邊 政明 (平和建設株式会社 代表取締役)
森田 伸幸

地元密着型のインスペクションができる不動産として関東で不動産業を営むJSHI会員の河邊政明氏(平和建設株式会社 代表取締役)をお迎えし、JSHI会員である森田伸幸氏と共に、スキルアップを目的とした定例研修会を実施しました。

第1部では、河邊氏より、インスペクションを不動産業界で生かす知識を。第2部では、森田氏より、集客時点、問い合わせ時点、診断現場で、報告書作成時点など、インスペクションの実際の現場で起こる「どうしたらいいの？」に応えたテクニックを紹介していただきました。



熊本会場の様子



河邊政明氏



森田伸幸氏



イベントの後は懇親会。忘年会シーズンとあって大盛り上がりでした

▶ スタートアップセミナー

2019年2月23日(土)

会場：リファレンス大博多ビル1108

■ 講師 栃木 渡、熊本 茂仁、森 康浩

毎年約3割の合格率と狭き門である「JSHI公認ホームインスペクター資格試験」の2018年度合格者の疑問や不安を解消するスタートアップセミナーを実施しました。

JSHIの理事を務める栃木渡氏を迎え、ASHI視察の報告など、インスペクション先進国アメリカのホームインスペクションの情報を紹介するほか、依頼を請けるための前準備に関する知識や、実際に住宅診断をする際に使用する道具の紹介や実務の流れなど、すぐに役に立つ知識をベテラン講師が伝授。また、法人賛助会員の大和ハウス工業株式会社よりmoogleの紹介や、ライフアース株式会社が登壇し、JSHIの団体保険の説明をしていただくなど、明日から役に立つ情報目白押しの充実した内容のイベントとなりました。



会場の様子

ASHIの報告をする
栃木理事



依頼を請けるための前準備の知識を伝授する熊本茂仁氏



道具などの解説を担当した森康浩氏

▶ 実地研修会

2019年2月24日(日)

会場：福岡県小郡市某所

■ 講師 野中 明人、立石 勝巳、森田 伸幸

スタートアップセミナーの翌日に、好天の下、福岡県内の某中古物件で、実地研修会を開催しました。

実際のホームインスペクションに関する知識を学べるとして、14名の方が参加。3班の少人数のチームに分かれ、ベテランのホームインスペクターが、初参加の方にも分かりやすく知識を伝授していました。



実地研修の物件内部の様子



外壁を調査するA班担当の野中明人氏



講師でB班担当の立石勝巳氏

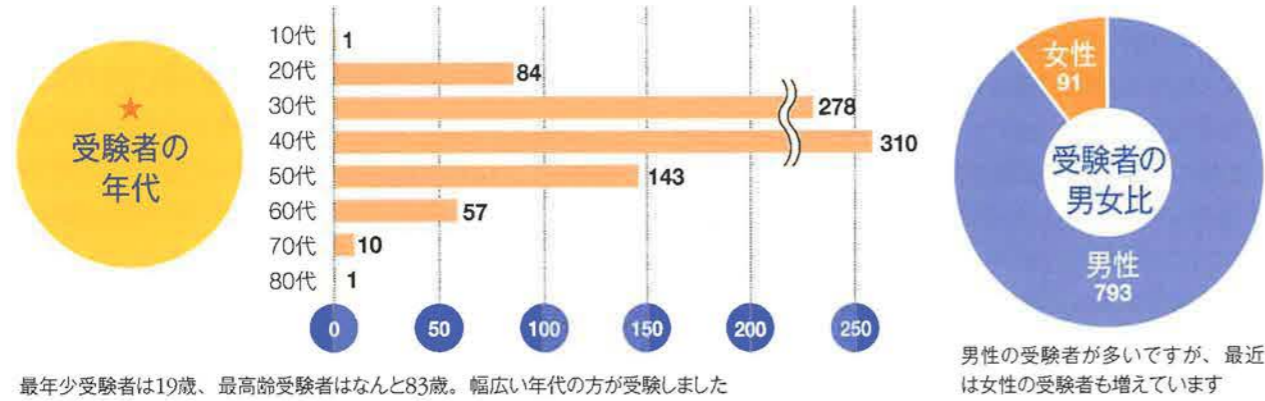
指導中のC班担当の森田伸幸氏



最後は、参加者全員で記念撮影

第10回 JSHI公認ホームインスペクター(住宅診断士)資格試験を実施

2009年に東京と大阪の2都市2会場で受験者数983名でスタートした認定試験も昨年で10回目。
11月18日(日)に、全国7都市の会場で実施しました(当日受験者数：884名)。

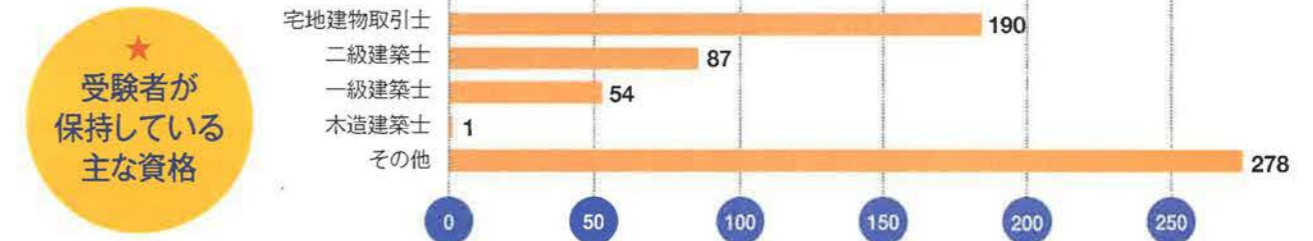


最年少受験者は19歳、最高齢受験者はなんと83歳。幅広い年代の方が受験しました



第10回 JSHI公認ホームインスペクター(住宅診断士)資格試験 受験申込者アンケート結果 (有効数：516、複数回答可、回答は任意)

受験申込期間中(2018年6月25日～10月15日)に実施したアンケートの集計結果です。



▶ 新任理事ごあいさつ

このたび、理事を拝命いたしました河邊と申します。

埼玉県戸田市にある小さな町の不動産屋「平和建設株式会社」の2代目として、現在、賃貸物件の管理から原状回復リフォーム、住宅の仲介や事業用/投資用不動産の取り扱いまで、不動産にまつわる業務を幅広く取り扱っております。東日本大震災をきっかけに2011年に本資格取得の後、一昨年まで関東エリア部会のお手伝いをさせて頂いておりました。

今回の大役を仰せつかり責任の重大さを痛感しつつ、微力ではございますが「人と住まいのより幸せな関係を追求し、その思想を世の中に広めること」に精一杯力を尽くして参る所存です。何卒宜しくお願いいたします。



▶ 事務局の新人紹介

はじめまして。青木淳と申します。

昨年12月に入局しました。前職は、建材メーカーと建築資材の運送会社におりました。

半年がたち、ようやくおぼろげながら協会の活動が分かってきた状態で、先日の総会で初めて会員の皆様に直接に接することができました。事務局として少しでも会員の皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。

今後もエリア部会活動などをご指導ご鞭撻いただき、ともに協会を盛り上げていきたいと思っております。

趣味はスポーツ観戦で野球、サッカー、ラグビーと機会があれば何でも観に行きます。

残念ながら、ラグビーW杯もオリンピック・パラリンピックもチケットは取れませんでした。

販売開始から5年。サービスロボット部門「優秀賞」受賞をへて、モーグルはこの度進化しました。モーグルは住宅の床下を遠隔で操作し点検するロボットです。業務の効率化、お客様にリアルタイムでご覧いただき、安心・信頼を獲得する革新的なサービスを提供します。

詳しい資料・導入事例DVD、現場でのデモ走行など、お気軽にお問い合わせ下さい(ウェブサイトからもお問い合わせいただけます)。



住宅のインスペクション

- 定期点検
- 耐震診断
- 現況検査
- シロアリ診断
- リフォーム工事前の現地調査など

大和ハウス工業株式会社
 ヒューマンケア事業推進部
 大和ハウス工業株式会社 株式会社営業グループ

フリーダイヤル **0120-934-576**
 担当 小林 (e-mail: m247698@daiwhouse.jp)
 webサイト <http://www.daiwhouse.co.jp/robot/moogle/index.html>

株式会社アイ・ソーキは計測機器のレンタルを行っています。壁内部の鉄筋位置を特定する鉄筋探査機や、人が入れない狭い場所に入れて目視できるファイバースコープカメラ、木材の水分量を確認する木材水分計、コンクリートの強度を測定するシュミットハンマー、その他にも、騒音計、振動計、風速計、粉塵計、傾斜計等約2,000種類の計測機器を取り扱っています。最短翌日午前お届け可能、校正書類などの各種書類にも対応しております。下記弊社ホームページより会員登録して頂くと、ホームインスペクターズ協会員様への特別価格で金額が表示されますので是非ご利用ください。*会員登録の際は協会の旨を備考欄にご記入ください。



ホームページアドレス: <https://i-sooki.co.jp/>
 フリーダイヤル: 0120-856-989



株式会社アイ・ソーキ
 住所: 東京都中央区新川1-8-6 秩父ビルディング5階
 電話番号: 03-5117-0005
 FAX 番号: 03-5117-0006

『赤外線建物診断技能師』研修・資格試験のご案内

- 目的
 外壁診断、雨漏り診断現場実務者として赤外線建物診断の基本知識・実務知識を習得
- 研修内容
 赤外線建物診断基礎知識及び実務の基本技術を座学により習得していただきます。診断実務に必要な
 1. 撮影環境条件
 2. 適正な撮影手法
 3. 劣化部判別の解析知識
 4. 誤診しないための判別阻害要因知識を学んでいただきます。
 詳細は、URL からご確認ください ▶ URL <http://www.ters.or.jp>



一般社団法人 **TERS** 街と暮らし環境再生機構
 Town and living Environment Reproduction Society

〒210-0852 川崎市川崎区鋼管通4丁目5番3号
 Phone: 044-201-7411 Fax: 044-366-2495
 E-mail: info@ters.or.jp <http://www.ters.or.jp>



日本ホームインスペクターズ協会会報誌

Home Inspectors JAPAN vol.18

2019年7月号

|発行| 特定非営利活動法人 日本ホームインスペクターズ協会

※2017年5月より、渋谷区から下記の住所へ事務局を移転しました。

東京都新宿区新宿1-9-10 YKB東ビル401 〒160-0022

Tel. 03 (6709) 8275 Fax. 03 (6709) 8295

公式ウェブサイト <http://jshi.org/>

ご注意：本誌は非売品です。また本誌掲載記事の無断転載を禁じます。無断複写・複製（コピー等）は著作権法上の例外を除いて禁じられています。